

授業案⑫ 社会問題に興味を持ち、選挙に行こう

1 対象

中学生、高校生

2 獲得目標

国民主権原理、民主主義について理解するとともに、民主主義の欠点を憲法(立憲主義)が補っていることを理解する。すなわち、民主主義を貫徹すると、少数者の人権が侵害される危険があることを理解する。これらを理解した上で、選挙権の重要性、選挙権行使の動機付けとして日頃から社会問題に興味を持つことが重要であること、1票が選挙結果を左右することもあるほど重要であることを理解する。

社会問題について生徒なりの考えをもってもらうため、実際に社会問題を検討してみる。またこれにより、社会問題を考える上で学校教育が重要であることも理解してもらう。

3 指導要領との関係・本授業案の意義

高等学校学習指導要領公民編では、「人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義」等の公共的な空間における基本原理について理解することが求められている。

国民主権原理、民主主義、立憲主義をそれらが実際に作用する場面を通して理解するとともに、また各原理相互の補完関係を理解することは重要である。これらを理解する上で、その定義、内容、成り立ちを解説することは重要であるが、その理解度を深めるためには、日々社会問題について興味を持ち、考察する姿勢が求められる。そこで、本授業案では、現在の社会問題を題材とし、社会問題に興味を持ち、また学校で習得した知識を用いて考察する能力を養うことを目的としている。

また、社会問題に興味を持つことで、選挙権行使の動機付けとなることを目的とする。

4 授業の流れ

段階 時間	○教師の主な発問・指示 ◎学習内容	生徒の反応 指導のポイント
導入 5分	○自己紹介、弁護士の仕事紹介	
展開1 10分	○現在の日本、世界で起きている社会問題の提示 Ex 物価高、ウクライナ問題、北朝鮮・中国等の日本の安全保障状況、原発、防衛費増加、少子高齢化、憲法改正、パレスチナ問題	・可能な限り、授業時に社会で話題となっている問題を例示する。

	<p>○社会問題を国民一人一人が考える必要性の説明。 独裁国家では独裁者が一人で全て決めてしまう。しかし、独裁国家が国民に幸福をもたらさないことは歴史が示している。 そこで、現在では民主主義のもと、国民が国家の在り方を決める（国民主権） ⇒国民一人一人が社会問題に関心をもって、考える必要性</p> <p>○民主主義（多数決）の欠点の説明 多数派の意見が通りやすい民主主義においては、少数派の意見が制限、無視されやすく、少数派の人権が軽視されやすい。 そこで、多数決によっても、奪うことのできない権利を定めたものが憲法（立憲主義）</p>	<p>・社会問題に興味を持つことが、選挙に興味を持つ重要な要素であることから、生徒に興味を持ってもらえそうな社会問題を提示する。</p> <p>・国民主権、民主主義の理解 主権が国民にない独裁国家を例に、主権が国民にあることが国民の幸福に寄与することの説明</p> <p>・立憲主義の理解 国民主権に基づく民主主義の限界についての説明</p>
<p>展開2 10分</p>	<p>○投票に行くことの重要性についての理解を現実の投票数から説明する。 Ex 2021年衆議院長崎4区 391票差 その他、地方選挙での僅差</p> <p>○当落に影響が出ない場合の投票の意義 当選者・落選者にとっての得票数の意味について説明する。当選者の場合でも圧勝か、僅差かでその後の政治活動に影響を与えうるものであり、落選者の場合でも得票数は次回選挙への動機となる</p> <p>○現在の日本の人口ピラミッドを説明しながら、若者世代が投票に行く意味を説明する 少子高齢化の中で、若者世代は分母自体が少ない。若者世代の投票率が低ければ、候補者の政策が高齢者寄りになってしまうことを理解してもらおう。</p>	<p>・1票を投票したところで結論に影響がないとの声に対する回答部分である。 展開1とは異なり、実際の投票結果を見ながら、1票が価値を持っていることを理解してもらおう。</p> <p>・部活の試合結果等を例に、圧勝したか僅差かでその後の練習や作戦に影響があることを理解してもらおう。</p> <p>・人口ピラミッド上、若者世代が積極的に投票に行かないと、意見が国政に反映されないことを説明する。</p>
<p>展開3 15分</p>	<p>○展開1で例示した社会問題の一つを取りあげて、社会問題について考えてみる。また、社会問題について考える際には授業で習う知識が有用であることを確認してもらい、授業の大切さも理解してもらおう。 【以下はパレスチナ問題を例とした場合】 ○パレスチナ問題がどこで起きているか地図の確認 ○パレスチナ問題の現状の確認 ○ハマスがなぜイスラエルを攻撃したか？</p>	<p>・実際に社会問題を考えることで、さまざまな社会問題を考える際の基礎をつくる。</p> <p>・社会問題を考える際には、どちらが正解かを決めるのではなく、生徒各自が自身なりの結論に至るための考慮要素や考え方を提示する。</p>

	<p>①この問題を考える上で、重要な要素はユダヤ教とイスラム教の歴史。</p> <p>②ユダヤ教とイスラム教の衝突は初めてではない。</p> <p>③歴史を遡ってみると大きな衝突としては、第4次中東戦争。</p> <p>④第4次中東戦争がなぜ起きたか？これを考察するには第3次中戦争を見てみる必要がある。</p> <p>⑤第3次を考えるためには、第2次、第1次を見る必要がある。</p> <p>⑥第1次中東戦争はなぜ起きたか。これを考えるには、第2次世界大戦を見る必要がある。</p> <p>⑦第2次世界大戦を考えるには、第1次世界大戦を見る必要がある。</p> <p>⑧更に第1次世界大戦を考えるためには、それより前を考える必要があり、進めていくと、ユダヤ教とイスラム教の誕生までさかのぼる。</p>	<p>【パレスチナ問題を例とした場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界史の授業ではないため、各歴史を事細かに解説する必要はない。 ・社会問題を考える上で、歴史を古い方から新しい方へ見るだけでなく、新しい方から古い方へ見ていく視点も重要であることを理解してもらう。 ・左記の例では、用いた知識はいずれも学校で学ぶ範囲の知識である。
<p>まとめ 5分</p>	<p>○授業のまとめと質問コーナー</p>	